

特定非営利活動法人 東海自然学園
2022年度 総会議案書

日時：2022年6月15日（水）14時00分
会場：神田荘

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第1号議案 2021年度事業報告の件
 - 第2号議案 2021年度収支決算報告の件
 - 第3号議案 2022年度事業計画の件
 - 第4号議案 2022年度収支予算計画の件
 - 第5号事案 2022年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

2021年度事業報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

【2021年度方針】

◎新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、活動を再開する。

- 新型コロナウイルスの感染状況や行政の対応などが時間の経過とともに変化する中で、運営における正しい判断や決定をするのは大変困難ではあったが、スタッフ一丸となり、情報収集、敏速な連絡、ルールづくり、感染防止への工夫に力を入れ、新しいスタイルで新型コロナウイルス禍での活動を再開させることができた。
- 講座や行事の縮小、時間短縮など例年と比較すると十分な活動とは言えないが、安全第一という学園の方針を理解し、ルールを厳守した会員の協力があってこそ、感染者ゼロの活動再開を叶えることができた。

◎昨年度1年間の活動休止による欠損の回復を意識した運営を行う。

- 新型コロナウイルスによる不安がある中、新聞広告費を節約しながらも、広報部を中心にパンフレットの配布や口コミ、行政イベントなどにて広報し、第18期生の定員を満了することができた。
- 新規事業科、森林公園整備科、環境教育科など、科と科が協力し助成金(交付金)事業に取り組むことができた。初めて「研修会」を開催し、収益面と実績の面で成果を上げることができた。
- 会員個人からの寄付金、新規入学生の紹介など、会員からの協力も大きな力となった。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

◇人数 ◎花組(32名) ◎星組(33名)

◇実施日

- ・花組 第1・第3金曜日
- ・星組 第2・第4金曜日

◇担当

- ・花組 スタッフ5名、アシスタント2名
- ・星組 スタッフ4名、アシスタント2名

◇修了者・皆勤者数

- ・花組 29名 ◎1年間皆勤6名
- ・星組 28名 ◎1年間皆勤6名

◇資格取得者(自然観察アドバイザー)

- ・花組(22名) ・星組(10名)

◇高等科への進学者数

- ・32名

◇内容報告

- ・講座中の大きな怪我や事故などなく、安全に1年間の講座を実施することが出来た。
- ・休学・退学者があったが、それぞれ個々の事情(健康上の理由など)によるものだった。
- ・受講時の新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用・「健康チェックシート」の提出・受付での検温と消毒・道具の消毒・換気・密を避けての着席を必須とした。
- ・4月～8月末までは、感染防止のため昼食を避けて半日で講座を実施した。(バス利用せず)

- ・ 9月以降より例年通りの1日を通した講座に戻り、バス利用の講座も実施。ただし、食事中やバス車内は会話禁止とした。
- ・ 例年、春に実施する1泊2日の合宿は、「日帰り遠足」に変更し11月に実施した。
→（講師：北岡明彦、行先：面の木園地） ※花組・星組それぞれ別日に実施
- ・ 「緊急事態宣言」発令中は講座を中止・延期としたため、下記の3講座を3月末までに開催することができず、修了式にて受講料（2,000円/回）を返金した。
 - 【中止となった講座】「海辺の生きもの」「ネイチャーゲーム入門」
「里山の動物」（講師の先生の急逝のため）

◇委員会活動

【企画委員会】

※日帰り企画は中止。修学旅行は下記の通り日帰りでの企画とした。

- ・ **花組** ●〈実施日〉3月11日（金） ●〈行先〉佐久島 ●24名参加
- ・ **星組** ●〈実施日〉3月11日（金） ●〈行先〉年縞博物館と三方五湖 ●23名参加

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個々の観察記録を集め、表紙や目次などをつくり立派な冊子に仕上げた。
- ・ 「報告会」では進行を務め、全員が自分の観察記録を発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、展示、ワークショップに挑戦した。講座の時間短縮や中止などにより準備時間が少ない中、役割を分担して準備を進め、当日には工夫を凝らした展示や、自然素材を活かしたワークショップで学園祭を大いに盛り上げた。

- 実施日：12月8日（水）・9日（木）
- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター
- ・ **花組** ◎展示・・・『来て 見て 触って』
◎ワークショップ・・・『マツボックリツリー』『連鶴』
- ・ **星組** ◎展示・・・『今こそ自然を掘り起こそう』
◎ワークショップ・・・『ポチ袋』『アートストーン』

■高等科

◇実施日 火曜日（原則）

◇担当 スタッフ（5名）

◇修了者数

- ・ 32名 ◎2年間皆勤者（7名） ◎1年間皆勤者（11名）

◇資格取得（自然観察上級アドバイザー）

- ・ 27名

◇実施内容

- ・ 受講時の新型コロナウイルス感染防止対策として、マスクの着用・「健康チェックシート」の提出・受付での検温と消毒・道具の消毒・換気・密を避けての着席を必須とした。
- ・ 担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で講座を運営する事が出来た。
- ・ 下半期は月3回の講座日程を組み、計画どおりに講座を開催することができた。また、幸い受講生もスタッフも感染者は出なかった。
- ・ 例年、春に実施する1泊2日の合宿は、「日帰り講座」に変更し10月に実施した。
→（講師：小野木三郎、行先：宇津江四十八滝）
- ・ コロナの影響で講座日に変更するなど混乱がある中で、出席率は95%と良好だった。
（修了式前日まで講座を実施）
- ・ 「緊急事態宣言」発令中は講座を中止・延期としたため、下記の6講座を3月末までに開催することができず、修了式にて受講料（2,000円/回）を返金した。

【中止となった講座】

- 4月：身近な野草 ●5月：植物を知る ●8月：救急処置を学ぶ、昆虫と菌類の共生
- 9月：地質巡り（知多半島）、水辺の生き物（庄内川）

◇委員会活動

【企画委員会】

※日帰り企画は中止。修学旅行は下記の通り日帰りでの企画とした。

- ・(修学旅行) ●〈実施日〉3月8日(火) ●〈行先〉のんほいパーク ●26名参加

【観察記録委員会】

- ・委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

【学園祭委員会】

第9回学園祭のテーマ「今こそ、自然を再発見！」を決定し、委員会メンバーを中心に盛り上げた。

- 実施日：12月8日(水)・9日(木)
- 会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター
 - ◎〈展示〉・・・『見つけた！ネイチャーワールド』
 - ◎〈ワークショップ〉・・・『ペットボトルホルダーづくり』

■カリキュラム選択科

新型コロナウイルスにより会場やバスなどの人数制限が例年以上に厳しくなると予想される為、2021年度は「選択科」の募集を控えた。

■専修科

- ◇担当 2名(講座により1名応援)
- ◇定員 最大20名 催行最少人数12名
- ◇実施日 4講座 5日間(下半期のみの開催)
- ◇実施内容
 - ・計画通り合計4講座、5日間の講座を開催した。
 - ・コロナまん延状況にもかかわらず、平均出席者数は14名、平均欠席者数は2名。
 - ・どの講座も受講生の評価は大変良かった。
 - ・少人数参加の講座となり、バス車内・座学会場、等感染防止の対応がしっかりできた。

広報

- ◇担当 スタッフ=5名、サポート隊=3名
 - ・コロナ禍で変則的な活動であったが18期生の定員確保に繋げることができた。

◇実施内容

『18期生募集』

- ・募集パンフレットの発行数を見直し、発行数は15,000部とした。
- ・第1回目発送：6月22日 204ヶ所 3,876部
- ・第2回目発送：10月26日 385ヶ所 8,890部

『体験入学』

- ・フィールド(森林公園・一般公園)、座学(同案内所内多目的室)
- ・講師(久村三重子：2期生)
- ・第1回 7月13日 参加人数(28名)
- ・第2回 2月25日 参加人数(30名)

『学園広報活動』

- ・「イオン・黄色いレシート活動」は、コロナ禍のため店頭活動は中止。会員のご協力により集まったイエローレシートでコピー用紙などを購入した。(10,500円分)
- ・「環境デーなごや」は、久屋大通公園での開催は中止。代わりに開催された「パネル展」に、学園のポスターや環境教育科の作品などを数点出展した。
- ・「メディア等へのPR」として学園祭の取材依頼(中日新聞)をしたが、取材はなかった。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担当 3名
- ◇人数 37名
- ◇方針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。

◇目的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。

◇今年度の目標と達成度

- ・目標① 過去の作品やその作り方手順・必要な材料などを整理して残す。
→助成金で「クラフト作品集」カラー全20ページを20冊作成いただき、これまでの作品を冊子で見られるようになった。また、新作に関しては作り方手順を図や写真を掲載した説明書を作成するなど、目標を達成することができた。
- ・目標② 作り方指導だけではなく、素材そのものの説明や情報を伝える工夫をする。
→目標達成に繋がる活動はできなかった。(時間短縮など準備時間の不足)
- ・目標③ 当学園の広報に繋がる工夫を取り入れる。
→作品を持ち帰る袋に、学園のシール(団体名や18期募集の文字)を貼った。
- ・目標④ 新しい素材(ワタ・ヒマラヤスギなど)を使って、新しい作品を考える。
→個々による新作への挑戦はあったが、実際に新作としてアウトプットするところまでは届かなかった。引き続き来年度の目標とし達成したい。

◇実施内容

- ・定例活動・・・13回 (第2・第4水曜日) ※市内生涯学習センターにて活動

◇年間活動実績

参加した受託事業や行事

新型コロナウイルスの不安が残る中だったが、メンバーはもちろん参加者(お子様)の検温や消毒・マスク着用を必須とし、感染防止対策をしながら下記の受託事業や地域貢献活動に参加・実施した。どの活動も安全にトラブルなどなく実施することができた。

- 戸田川緑地「とだがわまつり」【5/3月～5/4火】参加者(135名)
- 戸田川「秋まつり」【10/9土・10/10日】参加者(154名)
- 学園祭作品展示と「木の実のガチャポン」【12/8金～12/9土】参加者(81名)
- 学園祭ワークショップ出展【12/9土】参加者(29名)
- 障害者支援施設へ「木の実のサンタとトナカイ」材料キット提供【12月】(50名分)
- 障害者福祉施設へ「竹のランコロン」材料キットを提供【2月】(50名分)
- なごや環境大学「共育講座」～竹の伐り出しから!本格『門松』づくり～全4回講座の企画・指導【12/16・12/17】参加者合計(29名)

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

レギュラーコース4年卒業制を導入し、「レギュラーコース(在籍4年以下)」と「キャリアコース(在籍5年以上)」に分割してそれぞれに運営。

レギュラーコース

- ◇実施日 第2・4月曜日
- ◇担当 3名
- ◇人数 31名
- ◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

◇活動内容

●活動日数

- ・例年同様4班体制、各班担当の座学2回・フィールド3回で計画。
- ・緊急事態宣言で、座学1回、フィールド4回が中止。雨でフィールド1回が中止。

●座学テーマ

- ・中部の自然 ・自然は面白い 等

●フィールド

- ・小幡緑地 ・庄内緑地公園 ・定光寺 ・八竜緑地 ・海上の森 ・明德公園 ・勅使池

◇総括

- ・出席率81%と例年よりは良好。
- ・緊急事態宣言と雨でフィールドを1回も実施できなかった班があったのは残念である。
- ・座学でシリーズものとして4回の発表をした人がいて良かった。
- ・科学館見学とプラネタリウム観覧を実施し、従来とは違った学びができた。

キャリアコース

- ◇実施日 第2・4月曜日

- ◇担当 1名

- ◇人数 26名 (8期生:11名 9期:6名 10期:3名 11期:6名)

◇内容

- ・コロナの影響で8回活動中止、天白公園観察会は実施せず。
- ・段戸裏谷、七宗本谷、鳳来寺山等遠出も含むフィールドは14回実施。2月には受託講座も実施した。
- ・全体の出席率は73%
- ・8月レギュラーコースとの合同講座は中止。キャリアコースのみで熱田の森を観察した。

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

- ◇担当 3名

◇実施内容

1. 助成金に関わる活動

- 1) 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」
 - ・森林公園整備科との協働で対応 ・助成額:784千円
 - ・活用実績 ①ガイドイヤホン等の器材購入
 - ②「新規研修講座」 in 森林公園:3回講座で実施(30名/1回)
 - ・県主催の活動発表・交流会(2021.2.15):ポスター発表を予定したがコロナで中止
- 2) 「オータケ記念愛知県自然環境保護基金」
 - ・環境教育科との協働で対応 ・助成額:250千円
 - ・活用実績 ①ガイドイヤホン購入
 - ②冊子「クラフト作品集」作成…愛知県環境政策部などに配付。

2. 内津峠県有林の保護活動への参加検討

- ・6月:県自然環境課よりシデコブシ自生地保護活動への参加につき照会を受けた
- ・9月:県とのヒアリング ・11月:現地確認・12月:愛教大 渡邊教授との意見交換

◎活動については下記理由で暫く様子を見る

①現地へのアクセスに難がある（急斜面、悪路を10分）

②渡邊先生との連携を求められるが、学園の自主的活動との調整が未解決。

交流部

◇担当 4名

◇実施内容

●あらくさの発行

例年通り、高等科・基礎科の「編集委員会」メンバーの協力のもと、年4回発行した。

●クラブについて

- ・前年度末に全クラブ長出席のもと説明会を開催し、感染防止の学園方針やルールなどについて説明。そのルールに沿った活動を実施して頂いた。
（緊急事態宣言時は活動禁止、まん延防止等重点措置適用時は食事やバスの利用を避けての活動とする。活動の際は講座同様の感染防止ルールを厳守する。）
- ・全てのクラブが学園のルールを厳守した活動を実施し、感染者やトラブルもなかった。

◇各クラブの活動報告

「野鳥クラブ」

●クラブ長 波多野桂一（14期） 登録人員 26名 会費 1,000円/年

●活動方針と目標

- ・探鳥会を4回開催する。
- ・野鳥観察への興味を深めるため、座学を1回開催する。
- ・秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ・クラブ員同士の親睦を深める。

●活動内容

◇第1回 探鳥会 5/26（水） 場所 海上の森 ※コロナで中止

◇第2回 座学

◎日時 8月25日（水）

◎場所 西生涯学習センター

◎講師 村上 修（日本野鳥の会）

◎テーマ 「黒川の野鳥」

◎参加人数 （12名）

◇第3回 学園祭

◎日時 12月8日（水）、9日（木）

◎場所 地球交流市民センター

◎参加人数 （12名）

◇第4回 探鳥会

◎日時 12月17日（金）

◎場所 名城公園

◎案内人 村上 修（日本野鳥の会）

◎参加人数 （13名）

◇第5回 探鳥会

◎日時 2月8日（火）

◎場所 藤前干潟

◎案内人 村上 修、西村（日本野鳥の会） ◎参加人数 （8名）

◇第6回 探鳥会&総会

◎日時 3月24日（木）

◎場所 勅使池

◎案内人 村上 修（日本野鳥の会）

◎参加人数 （11名）

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員 43名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

・9/11（火）森林公園にて互選会と勉強会、植物園での撮影会（20名参加）

・12/8.9 学園祭にて作品展示（34枚展示）

「自然体験クラブ」

●クラブ長 服部 裕康（12期） 登録人員 59名 会費 1,000円

●活動目的

- ・自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う、
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する、
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問、
- ・その他目的を達成するための活動、

●活動内容

- ・11/4 「しだみ古墳群ミュージアム」古墳群ガイドツアーと埴輪づくり（25名参加）

「地質クラブ」

●クラブ長 福岡 潔（8期） 登録人員 104名 会費 1,000円

●活動方針

- ・近隣の地質の成り立ちその影響を観察する。

●総括

- ・クラブ員が100名を超える大所帯となったが、森勇一顧問のご厚意で、観察会の同日午前午後の2回開催と、二日に分けた2回のバス巡検を実施することができた。しかし、コロナ禍の影響で観察会を2回中止せざるを得ず、年間計画の4回には達しなかった。

●活動内容

- ・第1回 7/13『チャート！この奥深き地層を究める』 森 勇一顧問（計59名参加）
岐阜県坂祝町木曾川右岸、参加者を午前午後の2グループに分けて実施
- ・第2回 12/6と12/14『タービタイトと津波石』 森 勇一顧問（計62名参加）
2日間に分けてバスで南知多町を巡検し、師崎層群の化石発掘現場などを見学
- ・学園祭 12/8～9 「愛・地球博記念公園」クラブ活動の説明と化石等を展示した

「植物クラブ」

●クラブ長 霜 桂子（15期） 登録人員 93名 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・植物の魅力と感動を共有
- ・東海シニア自然大学で学んだ植物好きな仲間が集まって、相互の親睦を図り、「中部・東海の植物の魅力と感動」を共有し、植物クラブの枠を超え多くの人に伝播して自然保護や保全に関心を持つ仲間の輪を広げていくことを目指す

●活動内容

- ・4/19（月） 海上の森観察会（45名参加）
- ・10/1（金） 海上の森観察会（47名参加）
- ・11/4（木） 森林公園（37名参加）
- ・学園祭での展示 「植物の魅力と感動を共有」

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松崎 隆（13期） 登録人員 15名 会費 2,000円

●活動方針・目標

- ・植物を描くことにより、植物の観察力を高め、理解を深める。東海自然学園の卒業生らしい絵が描けるよう努力する。
- ・絵を描くことに基礎はありません。絵を描きたいという気持ちが基礎です。従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません。完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

●活動内容

植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。月毎の課題に沿って作品を仕上げる。

全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。学園祭において作品の展示を行う。(※毎月第4木曜日)

- ・4/22 (木) 総会・発表会 (イーブルなごや)
- ・6/24 (木) 福祉会館 ・7/22 (木) 北生涯学習センター
- ・8/26 (木) 福祉会館 ・9/16 (木) 北生涯学習センター
- ・10/28 (木) 福祉会館 ・11/25 (木) イーブルなごや
- ・学園祭にて作品の展示 ・12/23 (木) 北生涯学習センター
- ・1/27 (木) 北生涯学習センター ・2/24 (木) 福祉会館
- ・3/24 (木) 北生涯活動センター

「自然句詠クラブ」

- クラブ長 深見 秋男 (11期) 登録人員17名 会費1,000円
- 活動方針
 - ・自然を愛(め)で、その感動を575(俳句)に表現し楽しむ。
 - ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。
- 活動目標
 - ・月1回自作を持ち寄り互選会を実施。
 - ・一年のまとめとして「句集」を編集する。
- 活動内容
 - ※会場はいずれもイーブル名古屋(2020/2~2021/3 5 休会)
 - ・68回4/28日(11名) ・69回6/29日(16名)
 - ・70回7/28日(15名) ・71回10/27日(11名)
 - ・72回11/27日(14名) ・73回12/28日(14名)
 - ・74回1/28日(10名) ・75回2/28日(13名)
 - ・76回3/30日(13名)
- コロナで「句集」編纂もままならず、2年越しで発行することができた。

「湿地クラブ」

- クラブ長 小沢 球一 (10期) 登録人員17名 会費1,000円
- 活動方針・目標
 - ・観察会等を通して湿地に生息する動植物にふれあい会員の研鑽と親睦を図る
- 活動内容
 - (湿地観察会)
 - ・葦毛湿原 7/23 (14名参加)、10/21 (7名参加)
 - ・タカドヤ湿地 7/26 (11名参加)
 - (湿地保全ポータル活動)
 - ・葦毛湿原 12/19 (6名参加)、2/20 (8名参加)

「ハイキングクラブ」

- クラブ長 栗田 博之 (13期生) 登録人員67名 会費1,000円
- 活動方針
 - ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
 - ・体力の維持及び増進。
 - ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。
- 活動内容
 - ・5/15(土) 東区文化の道ハイキング ※緊急事態宣言により中止
 - ・12/4(土) 東区文化の道ハイキング (24名参加)
 - ・3/10(木) 碧南ハイキング ※まん延防止等重点措置により中止

「プチ・トレッキングクラブ」

- クラブ長 鈴木 行薫 (15期) 登録人員85名 会費1,000円
- 活動目標
 - ・軽易なトレッキングを通して、自然に親しみ会員相互の研鑽と親睦を図る。
- 活動内容

- ・10/26（火）瀬戸の海上の森・物見山トレッキング（27名参加）
- ・12/2（木）岐阜県・関ヶ原 古戦場めぐり（13名参加）

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- ◇活動日 ・第2・第4木曜日
- ◇科員数 ・33名
- ◇年間活動日 ・全日＝4回、半日＝8回、高等科講座＝1回、合計＝13回
中止＝11回
1回当たり平均参加者＝17.1名（前年＝22.3名）
- ◇活動内容 ・コロナ禍での変則的な活動のため、植生調査・科員全体での観察会が出来なかった。
・前年度からの整備地での整備活動が中心となった。
・あいち森と緑づくり助成金で導入されたトレイルカメラで、整備地に現れる動物の確認が出来ている。（継続観察する）

■瀬戸里山整備科

事故の無い安全作業を最優先し、科員の増員を目標にした。
学園祭で、瀬戸里山整備科の活動報告を展示し広報した。
体験整備に2名の申し込みがあり、参加された2名が入会された。

- ◇担当 2名
- ◇登録者 20名
- ◇活動場所 瀬戸市曾野町
- ◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日
- ◇年間活動日 9日（緊急事態宣言発令で中止が3日） 述べ参加人数・・・120名
- ◇活動内容
 - ① 安全作業を最優先とし、作業前、作業後のヒヤリハットを徹底。
 - ② 科員の増員を目標にし、2名が加盟されたが、退会者が4名で減員となった。
 - ③ 活動報告書を作成し、定点観測を行った。
 - ④ ロープワークの実習を行った。
 - ⑤ 学園祭への出展⇒年間の活動報告、課員によるクラフトの出展を行った。
 - ⑦ 伐採したタケを利用して、門松づくりを体験、家族に好評だった。

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

<第2号議案> 2021年度収支決算報告

2021年度(第15期)活動計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	130,000		年会費(26名*5千円)
利用会員受取会費	1,380,000	1,510,000	年会費(460名*3千円)
2 受取寄付金			
受取寄付金	2,164,635	2,164,635	あいおいニッセイ同和損保, 個人
3 受取助成金			
受取助成金	1,084,000	1,084,000	あいち森と緑、オータケ基金、なごや環境大学
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	8,165,600		
普及啓発事業収益	123,100		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	0		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	8,288,700	
5 その他収益			
受取利息	156	156	
経常収益計			13,047,491
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,618,600		
通勤手当	229,040		
法定福利費	578,723		
人件費計	4,426,363		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,417,500		
教材費	139,915		
会場費	624,438		
広報費	0		
リーフレット代	291,500		
講師交通費	93,460		
スタッフ交通費	615,917		
消耗品費	1,094,659		ガイドイヤホン他
家賃	960,000		事務所家賃
接待交際費	0		
水道光熱費	95,633		
コピー機維持費	207,056		
保険料	315,912		NPO活動総合保険
通信運搬費	824,746		郵送費、通信費
諸会費	5,152		
雑費	5,000		支払寄付金
その他経費計	6,690,888		
事業費計		11,117,251	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	166,400		
退職給付費用	50,000		
人件費計	216,400		会計担当給与
(2) その他経費			
福利厚生費	9,894		
セキュリティ料	96,020		
旅費交通費	480		
消耗品費	739		
租税公課	1,800		印紙代等
支払手数料	88,161		会計指導料等
雑費	33,000		
その他経費計	230,094		
管理費計		446,494	
経常費用計			11,563,745
当期経常増減額			1,483,746
III 経常外収益			
給付金	30,000		30,000
ワクチン接種			
IV 経常外費用			
当期正味財産増減額			1,513,746
前期正味財産額			5,560,130
次期繰越財産額			7,073,876

2021年度(第15期)貸借対照表

令和4年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	19,941,156		
前払金	66,340		
流動資産合計		20,007,496	
資産合計			20,007,496
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	334,480		
前受金	11,732,000		
預り金	17,140		
流動負債合計		12,083,620	
2 固定負債			
退職給付引当金	850,000		
固定負債合計		850,000	
負債合計			12,933,620
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		5,560,130	
当期正味財産額		1,513,746	
正味財産合計			7,073,876
負債及び正味財産合計			20,007,496

2021年度(第15期)財産目録

令和4年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目		金 額(単位:円)	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	331,683	
普通預金	三菱UFJ銀行植田支店	13,624,723	
普通預金	ゆうちょ銀行	3,980,412	
定期預金	三菱UFJ銀行植田支店	2,004,338	
前払金	次年度会場費等	66,340	
流動資産合計			20,007,496
資産合計			20,007,496
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	3月分給与・社会保険料・交通費等	334,480	
前受金	次年度分受講料、年会費	11,732,000	
預り金	源泉所得税	17,140	
流動負債合計			12,083,620
2 固定負債			
退職給付引当金		850,000	
固定負債合計			850,000
負債合計			12,933,620
正味財産合計			7,073,876

2021年度(第15期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による

2 事業費等の内訳

(金額単位:円)

科目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	事業部門計	管理部門	合計
(1) 人件費									
給料手当	2,894,880	434,232	36,186	217,116	36,186	0	3,618,600	166,400	3,785,000
通勤手当	183,232	27,485	2,290	13,742	2,290	0	229,040		229,040
法定福利費	462,978	69,447	5,787	34,723	5,787	0	578,723		578,723
退職給付費用							0	50,000	50,000
福利厚生費							0	9,894	9,894
人件費計	3,541,090	531,164	44,264	265,582	44,264	0	4,426,363	226,294	4,652,657
(2) その他の経費									
講師謝礼金	1,261,500	116,000			40,000		1,417,500		1,417,500
教材費	113,544	26,371					139,915		139,915
会場費	547,058	55,200			22,180		624,438		624,438
広報費							0		0
リーフレット代	233,200	34,980	2,915	17,490	2,915		291,500		291,500
講師交通費	91,692	281	23	140	1,324		93,460		93,460
スタッフ交通費	564,037	30,060			21,820		615,917		615,917
活動交通費(バス代)							0		0
消耗品費	938,476	25,869			122,950		1,087,295	7,364	1,094,659
事務消耗品費							0	739	739
諸会費	4,122	618	52	309	52		5,152		5,152
家賃	768,000	115,200	9,600	57,600	9,600		960,000		960,000
接待交際費	0	0	0	0	0		0		0
水道光熱費	76,506	11,476	956	5,738	956		95,633		95,633
コピー機維持費	165,645	24,847	2,071	12,423	2,071		207,056		207,056
保険料	252,730	37,909	3,159	18,955	3,159		315,912		315,912
通信運搬費	659,797	98,970	8,247	49,485	8,247		824,746		824,746
セキュリティー費用								96,020	96,020
交通費								480	480
租税公課								1,800	1,800
支払手数料								88,161	88,161
雑費	4,000	600	50	300	50		5,000	33,000	38,000
その他経費計	5,680,306	578,381	27,073	162,440	235,324	0	6,683,524	227,564	6,911,088
経常費用計	9,221,397	1,109,544	71,337	428,022	279,588	0	11,109,887	453,858	11,563,745
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00		

2022年6月10日

特定非営利活動法人東海自然学園

代表理事 横井 進 殿

監事 小田 光生 

監査報告書

2021年4月1日から2022年3月31日までの、2021年度における業務執行並びに財産及び会計の状況について、特定非営利活動促進法の定めるところにより、同法第18条並びに定款第15条の定めによって監査を行いましたので、下記の通り監査結果を報告します。

記

事業報告・活動計算書・貸借対照表・財産目録及び会計諸帳簿類を精査した結果、経理処理・財産運用及び用途については、いずれも適正であり、業務については当初の目的を概ね達成できたことを認めました。

以上

<第3号議案>

2022年度事業計画

(2022年4月1日～2023年3月31日)

【2022年度方針】

◎コロナを乗り越え、前向きに！

- この2年間はコロナの対応に苦勞したが、その都度、会員からの理解と協力を得られたことが最大の力となり、乗り越えることができた。この力で、次のステップを目指す！
積み上げた実績を大切にしながらも、各科にて新しい体制づくりや新しい挑戦を目指す。

◎小さな声も、魅力ある活動につなぐ！

- 設立から18年が経ち、多くの人がこの学園を支え、更なる発展を期待している。その声に耳を傾け、求められている活動に近づく努力をする。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、新型コロナウイルス感染防止に努め、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。
- ・進路説明のタイミングや方法を工夫し、高等科への進学率を高める。

◇担当 8名 (+アシスタント7名)

◇人数 全72名 (2クラス)

◇実施日 年間30日間 (隔週火曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する
- ・新型コロナウイルスの感染防止を徹底する
- ・新型コロナウイルスの感染状況をみながら臨機応変に講座の内容を変更し、工夫をしながら実施する(講座・委員会・行事等)

◇担当スタッフ 5名

◇受講生人数 高等科32名 選択科年間計43名

◇実施日 金曜日(原則)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムを計画
- ・各委員会の活動支援
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善・見直し
- ・記録、報告書の作成

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。

■専修科

- ◇担当 2名（講座により+1名）
- ◇定員 20名（講座により最大25名～17名） 催行最少人数12名
- ◇実施日 年間10講座 13日間
- ◇計画内容
 - ・バス使用および宿泊を伴う講座もあり、決められたコロナ対策を確実に実施する。
 - ・年間カリキュラムのスムーズな進捗に努める。
 - ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善、見直しを行う。
 - ・新講師、新講座の可能性を常に模索し、講座内容の新鮮化に心がける。

広報

- ◇担当 スタッフ（5名）、サポート隊（5名）
- ◇方針 積極的に新しい広報策を模索し実施する。
- ◇目標 他の科・サポート隊との連携を強化し、定員72名確保を目指す。
- ◇具体的計画
 - 『19期生募集』
 - ・募集パンフレット設置場所の見直しをし、新規開拓をする。
 - ・募集パンフレットの発行数は15,000部、デザインの見直しを行う。
 - ・募集パンフレットの発送 = 1回目（6月21日）2回目（10月17日）
 - ・体験入学を2回開催する。
 - 1回目（7月22日午前）、2回目（12月7日午後）
 - ・19期入学予定者へ催事案内（学園祭、特別講座、天白公園自然観察会など）
 - 『学園広報活動』
 - ・メディアに投稿・取材依頼等を積極的に行う。（新聞社・テレビ局・NCS-J等）
 - ・イオン・イエローレシートのキャンペーン活動に参加する。
（店頭活動は新型コロナ感染リスクを鑑み、当分の間見合わせる。）
 - ・ホームページのブログとお知らせ欄を都度更新する。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担当 4名
- ◇人数 45名
- ◇方針
 - 社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。
 - また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。
- ◇目的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。
- ◇今年度の目標
 - ・目標① 皆で情報のアンテナを張り、今までなかった新作や新たな活動に繋げ、挑戦する！
 - ・目標② 「アイデア&工夫」を積み重ね、成果（伝える力、売上、魅力）の向上につなげる！
 - ・目標③ クラフト作成以外に研修会や観察会などを開催し、活動のスキルアップを目指す！
- ◇計画内容
 - 毎月2回（第2、第4水曜日）の定例活動。

- 担当スタッフが女性4名であるため、運搬など力仕事の負担を減らす工夫を考える。
- 「戸田川緑地イベント」「なごや環境大学」「障害者支援施設への出前教室」など恒例となっている活動に加え、新たな受託事業に挑戦する。(天白区山根学区地域福祉推進協議会)

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、それぞれのコースにて学習・研究・実践を行う。

レギュラーコース

- ◇実施日 第2・4月曜日
- ◇担当 4名
- ◇人数 30名(新規8名)
- ◇目標 お互いに学びあい知識を深める。
- ◇活動内容

●活動日数

- ・昨年度同様4班体制、各班担当の座学2回・フィールド3回で計画。
- ・座学は議論があつて良いので、これまでと同様な回数で継続。

●フィールド

- ・4月 鶴舞公園 ・5月 海上の森、平和公園 ・6月 八竜緑地、長久手湿地
- ・7月 未定 ・9月 明智の森 ・10月 東山植物園、藤前干潟 11月 定光寺
- ・1月 勅使池 ・3月 海上の森

●キャリアコースと合同懇親会 8月

キャリアコース

- ◇実施日 第2・第4月曜日
- ◇担当 2名
- ◇人数 17名 (8期生:1名 9期:5名 10期:3名 11期:8名)
- ◇目標 お互い学び合い知識を深める
自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるよう年間計画を立て学習・実践する

- ◇計画事項 フィールド13回、天白公園観察会6回(下見含む)、基礎科受託講座を築水の森にて4回(下見、リハーサルも含む)実施する

◇月別計画 (合計25回)

- | | |
|------------------|--------------------|
| ●4月 総会、多度峡 | ●5月 天白公園観察会、海上の森 |
| ●6月 ひるがの高原、面の木峠 | ●7月 天白公園観察会、伊吹山 |
| ●8月 レギュラーと合同活動 | ●9月 城山、明智の森 |
| ●10月 天白公園観察会、石徹白 | ●11月 段戸裏谷、各務自然遺産の森 |
| ●12月 岩屋堂 | ●1月 受託講座下見、リハーサル |
| ●2月 受託講座(築水の森) | ●3月 魚飛溪、やまじの森 |

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 4名+α (検討課題によりメンバーは随時編成)

◇内容

1. 助成金申請と計画的な活動推進

1) あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金申請 3年目(内1年は返納)前年に続き森林公園整備活動を対象に申請。(申請額790千円→決定額687千円)
・作業時の暑熱対策などで活用する。

2) オータケ記念基金申請 4年目(内1年は返納)環境教育科活動を対象に助成が決定。(申請額416千円→決定額200千円)
・工具、資材の購入などで活用する。

2. 内津峠県有林整備活動検討 : 暫くは様子見とする。

3. その他検討テーマ

1) 賛助会員制度検討: 「あいおいニッセイ同和損保(株)」の第1号登録が決まった。本制度の今後の運用を検討し、会員増につなげたい。

2) 次年度以後の助成金取得活動検討: 新たな申請先や申請内容の見直しが必要。
・「オータケ記念基金」の助成は本年が最後になる。
・「あいち森と緑…交付金」: 機材費の申請額が制限され、運用経費重点での申請が必要。

交流部

◇担当 5名

◇年間目標

- ・OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を計画し実施する。
- ・クラブが安全、健全に実施されるよう活動を把握し助言する。

◇実施内容

- ・OB旅行を企画実施する。
(ただし、新型コロナウイルスまん延状況により、実施するか否かを判断する。)
- ・クラブ長会議を開催する。
- ・新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブを増やす。
- ・「あらくさ」を年4回発行する。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤浩生(15期) 登録人員(26名) 会費1,000円/年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、自然に親しみ、会員相互の親睦を図り、楽しい時を過ごす。

- ① 探鳥会を4回開催する。
- ② より面白い野鳥観察できるように、座学を1回開催する。
- ③ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ④ クラブ員間の親睦を深める。

●活動内容

第一回 探鳥会 5月18日(水) 海上の森
第二回 座学(野鳥講座) 8月頃
第三回 学園祭 11月頃

第四回	探鳥会	12月頃	牧野ヶ池
第五回	探鳥会	1月頃	藤前干潟
第六回	探鳥会・総会	3月頃	東山植物園

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員（41名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・4/6（水）総会・撮影会（東山動植物園）
- ・5/18（水）撮影会（浜松フラワーパーク）
- ・6/22（水）互選会と作品勉強会（神田荘）
- ・7/27（水）撮影会（醒ヶ井水中花と水の都大垣街並み）
- ・9/21 撮影会（岩村城と城下町）
- ・10/5（水）互選会と作品勉強会（神田荘）
- ・学園祭 作品展示
- ・12/7（水）撮影会（寂光院又は日本モンキーセンター）
- ・3/22（水）撮影会（近江八幡）

「自然体験クラブ」

●クラブ長 服部 裕康（12期生） 登録人員（57名） 会費 1,000円

●活動目的

自然の中で遊び・学び、自然への理解を深め、或いは歴史・文化に触れることを通じて、豊かな人間性、心のかよった人と人のつながりを創り、人と自然が共存する文化・社会の意識を高めることを図る。

●活動方針

- ・様々な自然の中で遊び、自然を分かち合う。
- ・野菜・山菜・木の実・魚介類等の自然の恵みに感謝する。
- ・歴史・文化・自然に関する史跡・遺産等の訪問。
- ・その他目的を達成するための活動。

●計画内容

- ・2022年9月
- ・2022年11月
- ・2023年3月

「地質クラブ」

●クラブ長 園田信五（11期生） 登録人員（111名） 会費 1,000円

●活動方針

- ・クラブ会員も110名を超える大所帯となり、コロナ感染状況が不確実な中、感染防止対策を念頭に置き、学園の方針に沿った楽しい巡検を4回実施したい。
- ・巡検の事前学習として“ZOOMを使ったオンライン学習会”を開催し、巡検をより深いものとしたい。
- ・学園祭に参加し、活動内容を広く学園内に説明したい。

●財政

2022年度会費

- ・2021年度が2回の観察会に終わり次期繰越金が143078円あることから、2021年度在籍者で会費を納入した人からは、2022年度の会費をいただかないものとする。

●計画内容

近隣の地質と地層を現地観察する。

「植物クラブ」

●クラブ長 岡島 栄子（16期生） 登録人員（87名） 会費 1,000円

●活動方針・目標

観察会をそれぞれの班が企画運営することにより

- ・会員相互の親睦を図る。
- ・植物の魅力と感動を共有する。

●活動計画

7回の観察会を実施予定。新型コロナウイルスの感染状況により、検討や見直しを行って実施する。

- ・木曾福島 城山観察会(5/16) ・戸田川緑地観察会(6/10)
- ・海上の森観察会(9/7) ・鳥居峠観察会(9/15) ・京都植物園観察会(11月)
- ・東山植物園観察会・総会(3月) ※他1回 検討中

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松山 治和（14期生） 登録人員（23名） 会費 2,000円

●活動方針・目標

- ・植物を描くことにより、植物の観察力を高め、理解を深める。東海自然学園の卒業生らしい絵が描けるよう努力する。
- ・絵を描くことに基礎はありません。絵を描きたいという気持ちが基礎です。従って描いた絵の評価は自分自身でしか出来ません。完成した絵は、毎日見ていろいろのことを考え、感じて楽しむことです。

●活動内容

- ・植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
- ・月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
- ・全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。
- ・学園祭において作品の展示を行う。

●活動計画

- ・日程 毎月第4木曜日
- ・主な活動場所「名古屋市福祉会館」

「自然句詠クラブ」

●クラブ長 伊藤 繁子（8期生） 登録人員（18名） 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・自然を愛（め）で、その感動を575（俳句）に表現し楽しむ。
- ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

●活動計画

- ・月1回(月末週)句を持ち寄り句会を実施する(お互いに評価し合う)
- ・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。
- ・句会のうち年2回程度、吟行（現地に赴き作句し句会を実施）。
- ・句会に年2回ほど講師を招き指導を受けレベル向上をめざす。
- ・1年の纏めとして句集を編集する。

「湿地クラブ」

●クラブ長 小沢 球一（10期生） 登録人員（14名） 会費 1,000円

●方針・目標

- ・湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動計画

- ・4/18 小幡緑地 ・5/20 みずの森 ・6/16 昭和の森 ・7/30 大狭間湿地

- ・8/3～8/5 尾瀬 ・9月 吉賀池湿地
- ・12、1、2月 長久手湿地（ボランティア活動）

「ハイキングクラブ」

- クラブ長 栗田 博之（13期生） 登録人員（72名） 会費1,000円
- 活動方針
 - ・自然観察及び散策、町の歴史探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
 - ・体力の維持及び増進。
 - ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。
- 活動計画
 - ・5/21（土） 熱田神宮ハイキング
 - ・9/17（土） 半田ごんぎつねの里と蔵の街ハイキング
 - ・11/19（土） おんな城主の里ハイキング
 - ・2/18（土） 目的地未定

「プチ・トレッキングクラブ」

- クラブ長 鈴木 行薫（15期生） 登録人員（77名） 会費1,000円
- 活動目標
 - ・軽易なトレッキングを通して、自然に親しみ会員相互の研鑽と親睦を図る。
- 活動計画
 - ・4/19（火） 中山道 馬籠から妻籠まで歩く
 - ・6/28（火） 入笠山
 - ・8月：八島湿原 ・10月：余呉湖 ・12月：京都トレイル ・2月：満観峰

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇活動日 毎月第2・第4木曜日

◇科員数 27名

◇活動計画

『安全』

- ・前年度はコロナ禍のため変則的な活動であり、整備活動のブランクがあるため安全作業を第一を特に意識する。
- ・一部改訂した「安全作業マニュアル」の遵守を徹底する。
- ・ヒヤリハット集を作成し安全作業に活用する。

『整備活動』

- ・前年度実施出来なかった「植生調査」を実施・記録を残し、調査に基づいた整備に活用する。
- ・適宜「観察会」を実施し、保護した区域等の状態を確認する。

『その他』

- ・昨夏に設置した「トレイルカメラ」の撮影を継続し、記録を纏める。
- ・科員の交流・親睦を深める。

■瀬戸里山整備科

年間計画をリーダーを中心に作成し、竹林部分、雑木林部分の作業日を意識して設定し実施する。急斜面の作業が多いため、安全作業を最優先としていく。

◇担当 2名

◇登録者 18名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先し、事故のない1年を目標とする。
 - ② マニュアルの読み合わせ、ヒヤリハットの作業前後の徹底。
 - ③ 竹林ではタケの年度別表示を継続、雑木の除伐を行なう。
雑木林部分については樹種の確認を行い残す樹木について討議し印付けを行なう。
 - ④ 科員増員の広報活動を行なう・・・ケヤキに投稿・タケノコ堀・門松づくり。
 - ⑤ 学園祭(係)委員を任命し、参加を全体の課題とする。
 - ⑥ 定点観測を継続し、作業の進捗状況、整備後の成果を行なう。
 - ⑦ 懇親会を実施し科員の交流を深める。
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願いの遵守、マスクの着用・検温の徹底・チェックシートへの記入・消毒の徹底

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

<第5号議案>

2022年度役員選任

2022年度の役員として下記の方を選任致します。

- ・ 代表理事 横井 進
- ・ 筆頭理事 朝田 泰
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 伊藤 準二
- ・ 理事 福岡 潔
- ・ 理事 森下 保男
- ・ 理事 中野 治男
- ・ 理事 鈴木 好則
- ・ 理事 中川 員
- ・ 監事 小田 光生

その他報告事項

上記役員以外の2022年度正会員

- ◆ 高島 裕美子 (9期生)
- ◆ 岩田 敏子 (11期生)
- ◆ 吉川 卷子 (11期生)
- ◆ 雑賀 典子 (11期生)
- ◆ 森 静枝 (12期生)
- ◆ 林 昌子 (13期生)
- ◆ 伊豆原 英子 (14期生)
- ◆ 祖父江 洋子 (14期生)
- ◆ 波多野 桂一 (14期生)
- ◆ 霜 桂子 (15期生)
- ◆ 寺田 良子 (16期生)
- ◆ 近藤 秀光 (16期生)
- ◆ 矢嶋 静男 (16期生)
- ◆ 日比野 久美 (16期生)